

WCRR2019 実施本部の設置について

平成30年4月4日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2019年10月28日から11月1日に東京国際フォーラムで開催される第12回世界鉄道研究会議（12th World Congress of Railway Research: 略称 WCRR2019）を円滑に開催するため、国際業務部に「WCRR2019 実施本部準備室」を設置し、活動してまいりました。

このたびメンバーを増員して新たに「WCRR2019 実施本部」として本格的に準備作業を開始することとなり、4月2日に開所式を行いました。開所式では、熊谷則道 理事長が実施本部メンバーへの期待を、兎束哲夫 国際業務部 WCRR2019 実施本部長が抱負を述べました。

【熊谷理事長の WCRR2019 実施本部メンバーへの期待】

WCRR2019 実施本部がスタートしました。開催まであと1年半、既にカウントダウンが始まっています。WCRR の役割も前回の日本開催の時と少しずつ変わってきたと思います。この20年間で日本の鉄道の仕組みや技術は大きくステップアップしています。そういったところを海外から来られる方々に見ていただく、また、ディスカッションや情報共有をする大事な会議になると思います。実施本部に所属する方々は思う存分オリジナリティを發揮して、発想豊かに、楽しく有意義な会議になるように知恵を絞っていただきたいと思っています。もちろん、鉄道総研全員で実施本部を支えていきます。みなさんのパワーに期待しています。

【兎束哲夫 WCRR2019 実施本部長の抱負】

WCRR2019 実施本部は7名でスタートします。日本の鉄道が世界に進出している現在、世界の鉄道技術者と経営陣が一堂に会してお互いの技術と戦略を披露する機会は大変重要です。WCRR2019 実施本部は、会議に参加される方々がすばらしい「カスタマー・エクスペリエンス」を感じていただけるよう全力を尽くして準備し、そして実施する所存です。

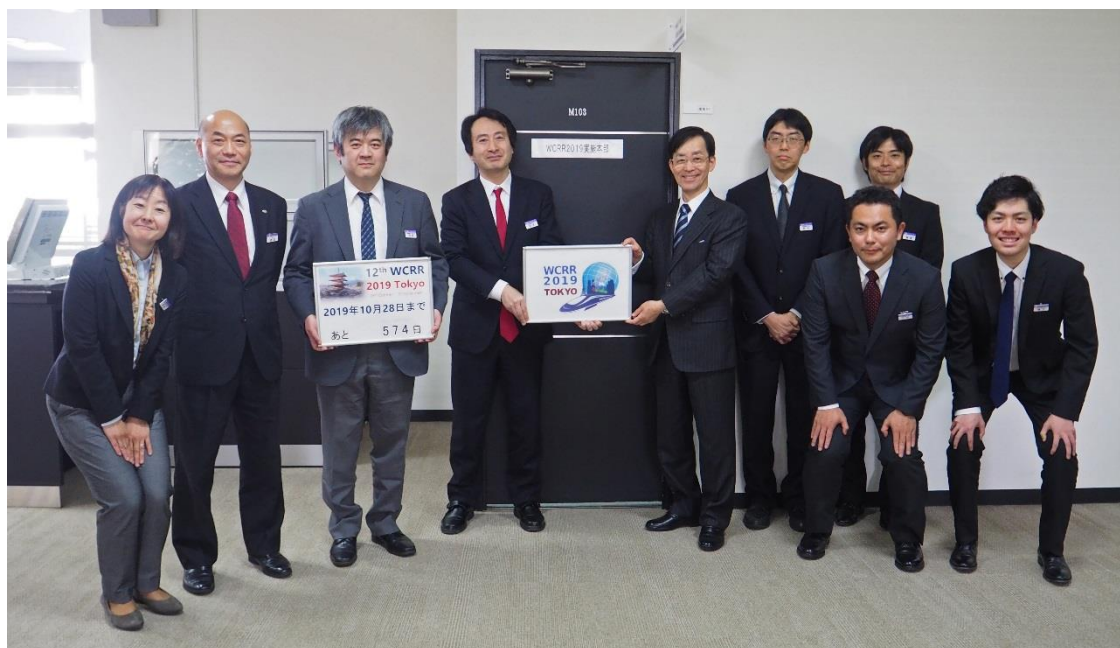


写真 熊谷理事長（中央右）、兎束実施本部長（中央左）と実施本部メンバー

【WCRR について】

WCRR は、鉄道研究の価値及び利益、鉄道研究及び技術開発の向上、国際的な協力及び技術情報の共有を使命として 1994 年から開催されており、世界各国の鉄道技術者とマネジメントが同居する会議です。鉄道研究をリードする国際鉄道連合（UIC）及びフランス国鉄（SNCF）、ドイツ鉄道（DB）、イタリア国鉄（Trenitalia）、英国鉄道安全標準化機構（RSSB）、米国運輸技術センター（TTCI）、鉄道総研からなる組織委員会によって運営されています。

WCRR 開催一覧

回	会議名	開催地	主催機関
1	WCRR '94	仏・パリ	フランス国鉄
2	WCRR '96	米・コロラド・スプリングズ	米国運輸技術センター
3	WCRR '97	伊・フィレンツェ	イタリア国鉄
4	WCRR '99	東京	鉄道総研
5	WCRR 2001	独・ケルン	ドイツ鉄道
6	WCRR 2003	英・エジンバラ	英国鉄道安全標準化機構
7	WCRR 2006	カナダ・モントリオール	米国運輸技術センター
8	WCRR 2008	韓国・ソウル	韓国鉄道技術研究院（KRR I）
9	WCRR 2011	仏・リール	フランス国鉄
10	WCRR 2013	オーストラリア・シドニー	オーストラリア鉄道連盟（ARA）
11	WCRR 2016	伊・ミラノ	イタリア国鉄
12	WCRR 2019	東京	鉄道総研

WCRR2019 は、技術者及び研究者等の交流に加え、我が国の鉄道技術を全世界の鉄道関係者に向けてアピールする絶好の機会となります。日本での開催は 1999 年に鉄道総研で開催した WCRR '99 に続いて 2 回目となります。WCRR2019 の会議テーマは **Railway research to enhance the customer experience**（カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道研究）であり、鉄道事業者、鉄道産業及び鉄道研究それぞれの立場からカスタマー・エクスペリエンスの向上を目指した発表が期待されています。

なお、Call for Papers 並びに、スポンサー及び展示募集要綱のリリースは 2018 年 4 月下旬を予定しており、5 月から研究発表論文を募集いたします。また、会議のスポンサー及び技術展示ブース出展を募集いたします。

<https://www.wcrr2019.org>